

2024年 ステージ I [9月～1月]

科学者講座

～さまざまな「未知」と出会う～

科学者講座は、子ども達が“科学者”という視点で「未知」と出会う講座です。

ふだんの生活の中で感じられる自然や社会のしくみをテーマとして扱い、その現象や背景に目を向けて、考えていきます。たとえば“山にある木を切り進めていき、森林がなくなったらどうなるだろうか”“水道の水は自分の家までどうやって来るのだろうか”などです。

自分自身の内側に生まれる、さまざまな「なぜだろう?」や外側の問い(刺激)から生まれた「なぜだろう?」をもとに、「もしかして、……かもしれない。」が生まれます。自分自身で考え、自由に表現することを通して、子どもは「未知を楽しめるワタシ」に出会います。

「社会科学」と「自然科学」を題材に講座を進めていきます。

[社会科学(将来的に社会科)]

- 自分の身の回りのものから考え、じょじょに、視野を広げてものごとをとらえられるようにする。
- 自分と他者、自分と日本、自分と世界というように、主観的にもものごとを見ることと、客観的にもものごとを見ることを体験する。
- 読み取った情報をもとに、自分で考えたり、相手にわかりやすく伝えるための工夫を考えていく。

[自然科学(将来的に理科)]

- ものごとをとらえるのに必要な力(整理力・調査力・推論力・表現力などつながる力)に焦点を当てたプログラムを通して、論理的に考えるための手段を獲得していく。
- 獲得した手段を状況に応じて使うことで、ものごとを筋道立てて考え、その先を予測することを体験する。
- 身近なものや現象を題材にすることで、科学的な視点を日常生活と結びつけながら捉えていく

【開講曜日】 金曜日 16:50～18:00 (全18回)

【授業料】 5,720円/月

【入会生募集】

①ご入会希望の方は、まずは練馬校までお電話ください。

②体験授業をご希望の方

授業の前日までに、練馬校までお電話ください。

《9月第21回～12月第36回の学習のテーマ》



8/30	情報を受け取るとき	10/25	生き物の体の形を見てみよう
9/6	情報を相手に伝えるとき	11/1	道具の形を見てみよう
9/13	もしも森林がなくなったら	11/8	家のつくりの工夫を考えよう
9/20	もしも道路をつくるとしたら	11/15	家のつくりとくらしのつながりに目を向けてみよう
9/27	形と働きに目を向けてみよう	11/22	「かたい」ってどういうことだろう
10/4	生き物は環境に合わせてどのような変化をしているのか?	11/29	かたさと強さの関係をさぐってみよう
10/11	台所から考えよう	12/6	「疑問を持つ」とはどういうことだろう
10/18	「もの」が生活をかえる	12/13	根拠を持って予想しよう